松尾寺

松尾寺は、8 世紀初頭に青葉山に建てられた西国三十三所巡礼の 1 つです。松尾寺の本尊は馬頭観音像で、この像は王冠のように馬頭を被っているのが特徴で、また他の観音菩薩とは異なり怒った表情をしています。

松尾寺は仏舞（ほとけまい）が行われる数少ない場所のひとつであり、この仏舞は平安時代（794 年～1185 年）の伝統的な様式で行われています。釈迦牟尼仏、阿弥陀如来、大日如来となった 6 人の踊り手たちが金の仮面とローブを身に着けて、伴奏に合わせて観客の前に現れます。仏舞で使われる吹奏楽器と打楽器は非常に古く、この仏舞の演奏は特にユニークな物となっています。記録によるとこの松尾寺の仏舞は、少なくとも江戸時代（1603 年～1867 年）、おそらくはもっと前から、松尾寺で行われてきたとされています。この仏舞は釈迦牟尼仏の誕生日から 1 か月後になる 5 月 8 日に毎年開催されており、また 2004 年には国の重要無形民俗文化財に指定されています。

松尾寺の重要文化財を含む多くの芸術品は、毎年春と秋に 1 か月間に展示されます。松尾寺のコレクションには、12 世紀に描かれ、国宝でもある一身三頭の象に乗った長寿の菩薩のである「普賢延命菩薩」の絵も含まれています。